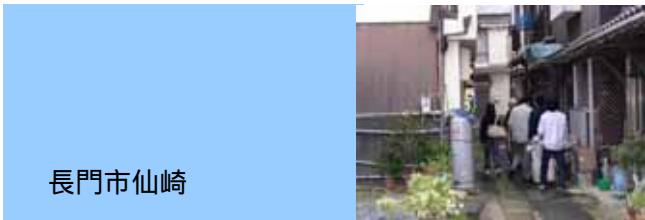




平成 16 年 10 月に山口県内 3 箇所(長門市・宇部市・周南市)で開催されました地域景観セミナー・ワークショップにご参加いただきまして、大変ありがとうございました。景観にまつわる講演、まちを見て歩いたタウンウォッチング、そして、壁新聞づくり。限られた時間の中で、自分の五感をフル活用して、まちの景観の特徴を少しでも感じることができたでしょうか？参加した当日を思い出して、みなさまの身のまわりを少し眺めたり、歩いてみてはいかがでしょうか。見慣れた風景の中からたくさんの魅力を発見できるかもしれません。



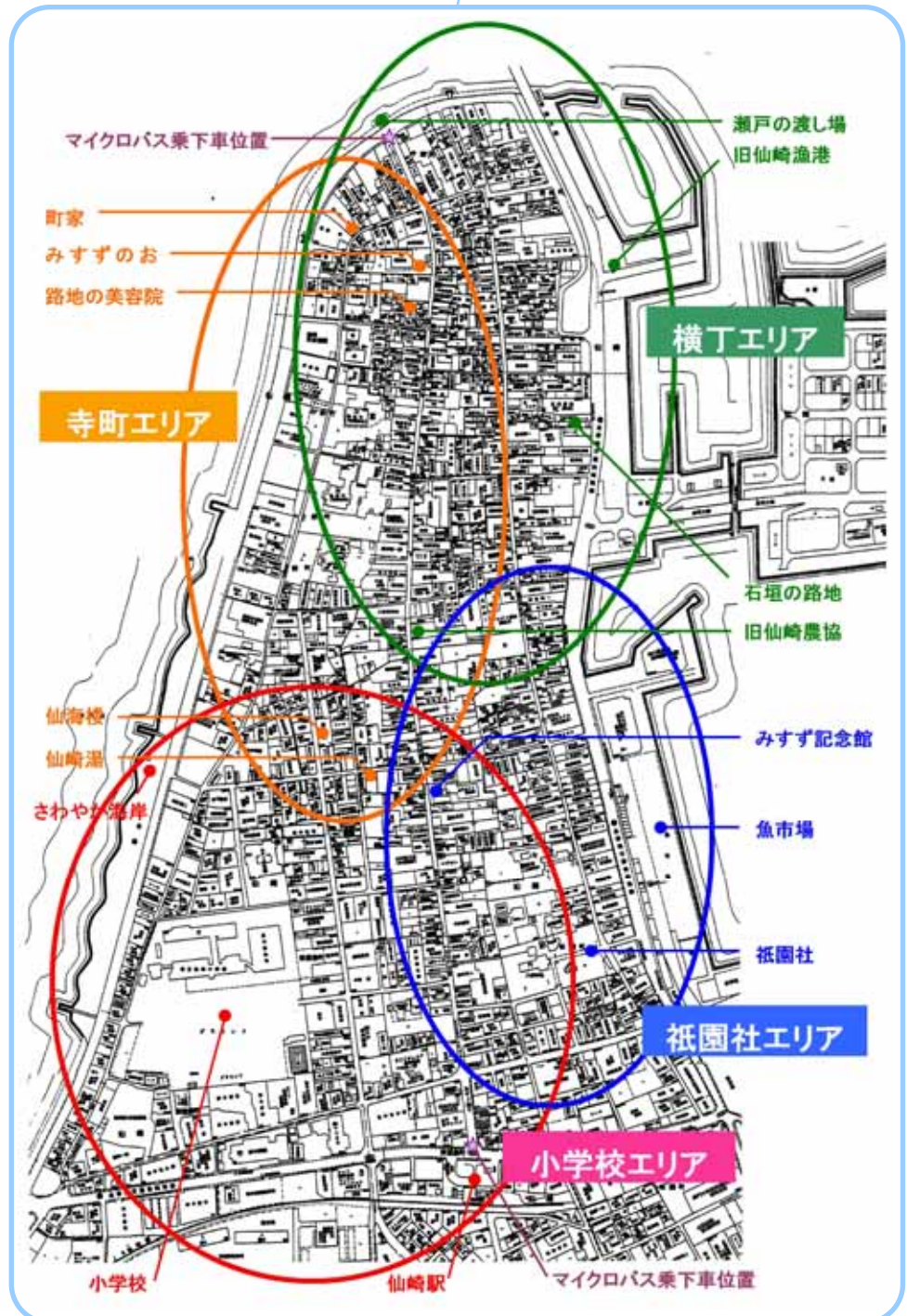
	長門市仙崎編	宇部市真締川編	周南市鹿野編
開催日	10月2日(土)	10月16日(土)	10月23日(土)
場所	長門水産多目的集会所	宇部市役所	鹿野グリーンハイツ
参加数	60名(7グループ)	60名(6グループ)	70名(10グループ)
地元 プチ 情報	みすずまちづくり協議会会長 坂本 和磨さん ・ 仙崎の歴史・成り立ち ・ 仙崎出身の童謡詩人金子みすずに関するエピソード など	宇部市職員 村田 美喜子さん ・ 真締川の歴史・成り立ち ・ 宇部市における緑と花と彫刻 によるまちづくりの取り組み など	周南市文化財審議委員会委員 廣本 茂夫さん ・ 鹿野の歴史・成り立ち ・ 鹿野に点在する史跡や山 代往還に関する豆知識 など
講演	コミュニケーション技研代表 中山 淑子さん 「うるわしながと」 ～美しいまちに生きる ということ～	山口大学工学部助教授 鷗 心治さん 「まちなみ景観づくりと まちづくり」 ～「絵になる景観」から学ぶ～	山口大学工学部教授 内田 文雄さん 「地域の自然・風土を 活かした景観まちづくり」

なお、本地域景観セミナー・ワークショップは、「景観意識の醸成」、「景観による街づくりのための人材育成」、「景観ネットワークの形成」などを目的に開催されました。

長門市仙崎編 10月2日(土)

長門市仙崎は、江戸時代から港町として栄えたまちです。町の中には、古い建物や寺院の土塀など昔を感じさせるものがそこかしこに隠れていました。童謡詩人金子みすずの生まれ故郷でもあります。

タウンウォッチングでは、7グループに分かれて、仙崎地区の4エリア（小学校エリア・祇園社エリア・寺町エリア・横丁エリア）を見て歩きました。



寺町エリア

1班「仙崎ぶらりぶら〜り」



3班「海と生活の香りがする仙崎」

1班: 同行していた地元の方の興味ある話や人柄の良さが印象的でした。仙崎の人のパワーをもっと出していってもよいのではと感じました。

3班: 地元の小学生が電柱にプランターを取り付けている姿を見かけ、若い年代が育っていると感じました。



横丁エリア

2班「仙崎漁師町かわら版<横丁の風情編>」



7班「人がふれあえる路地の風景~歩いて見つけるまちのかお〜」



2班: 木造トラス構造の魚市場があり、海にまつわるイベントなどに活用できると良いと思いました。

7班: 昔の面影や名残が残っている路地を通ると、キンモクセイや昔からある焼き杉が目についたり、晩御飯やチクワの香りがしました。



仙崎の景観
いかが感じましたか？

4班: 商店や民家に金子みすずの詩が、普通に掲げられていて、やはりみすずと深い関わりのある街であることを実感しました。

路地には、至るところにコケが生えており、何年もそこにある雰囲気を感じ出してほっとする場所になっていました。



5班: 今も五右衛門風呂を炊いている民家から煙が上がっていました。温かみがあって観光客は珍しいと感じるのではないのでしょうか。

6班: 歩いてしか通れないような路地が縦横無尽に走っていて、非常に人間的な温かみを感じました。



4班「みすずと歩いた街」

6班「いつも一緒だけど味わいのある町・仙崎」



5班「金子みすずをみ〜つけた!」



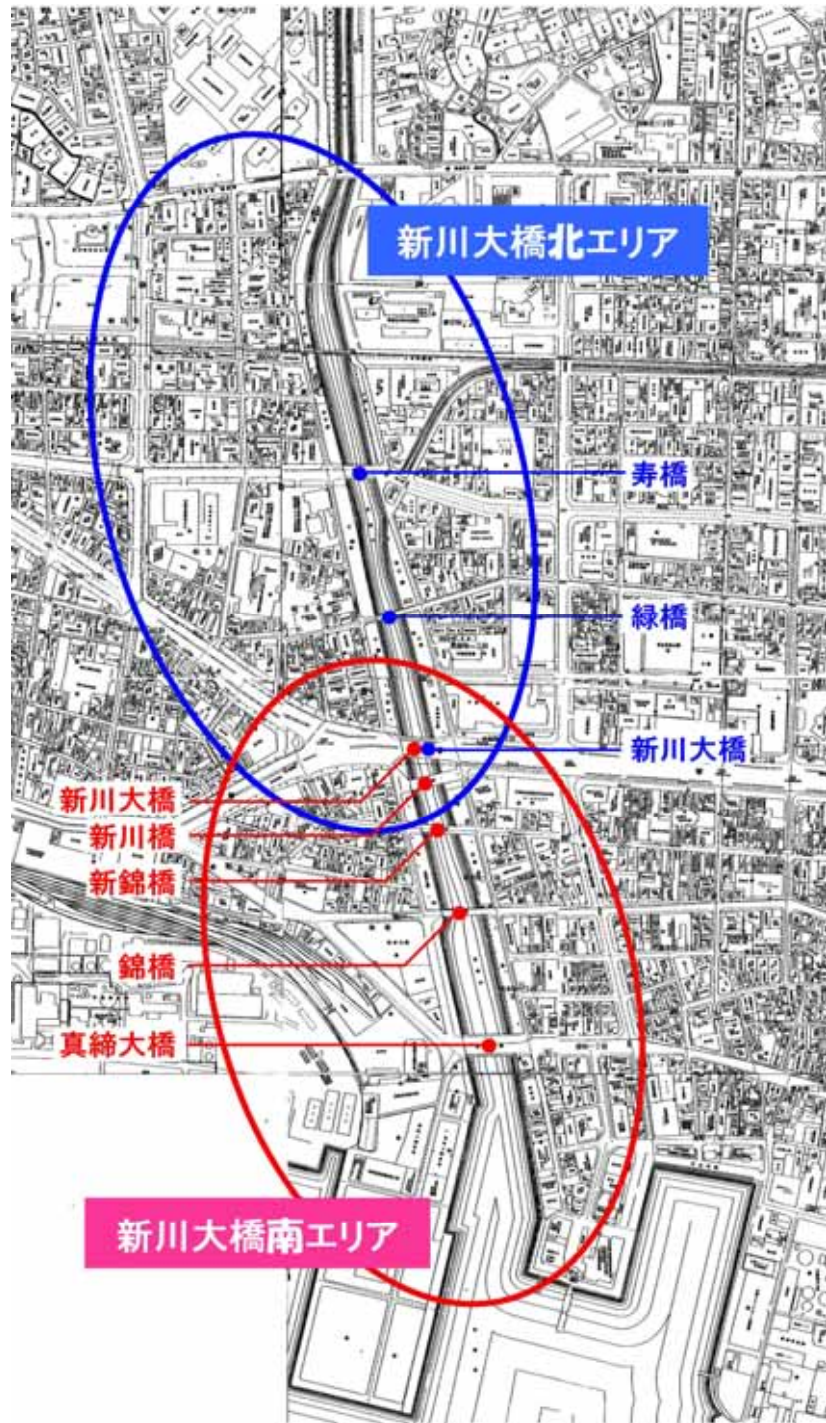
小学校エリア

祇園社エリア

宇部市真締川編 10月16日(土)

宇部市中心部を流れる真締川周辺では、6グループに分かれて、2エリア（新川大橋北エリア・新川大橋南エリア）を見て歩きました。

心地よい風、木漏れ日、鳥のさえずり、潮の香りなど、風景をより魅力的に演出する要素がさまざまありましたが、タウンウォッチングを通して「もっとこうなればいいのか」というご意見も多くみられました。



新川大橋北エリア



▲ 4班「もっと素敵に真締川！」

4班:水道管は水色、水道局は緑色、ブランコはパステルカラーと、色がバラバラでした。公共施設の色を統一すれば、もっと素敵になると思います。

6班:生垣が高くて川が見えない場所が多かったです。

紡績工場のレンガ外壁を利用した県営住宅があり、産業景観が残っていました。



5班「秋のマジメウォッチング」



◀ 6班「宇部真締川彫刻(チョコ)つと散歩」



5班:緑の多い公園内に、石でできた彫刻とともにメタリックな彫刻も置いてありました。これは、人によって意見の分かれる景観ではないかと感じました。

川沿いの空間を車椅子でも通れるようになると良いと常々感じています。

真締川の
どんな景観が
気に入りましたか？

1班:真締大橋は、以前の橋を継承した綺麗な橋で、数ある橋の中で、一押しでした。住民の意見を取り入れて、以前の橋を活かしているとのこと。

2班:新川大橋では、鳥の音が聞こえ、緑が多かったです。春には桜が咲いているだろうなと感じました。この中心市街地にもっと人が集まるようにすることが大事ではないでしょうか。



3班:真締大橋からは、海の景色と市街地の景色の両方も見えました。とても綺麗なポイントでした。

まちの中心地でありながら、釣りをしている姿があるなど、和やかな感じがしました。

2班「真締川 まじめに歩いてぶらり旅」



▲ 1班「秋を満喫した宇部真締川周辺」



◀ 3班「キラキラ真締川～プラチナロマンを求めて～」



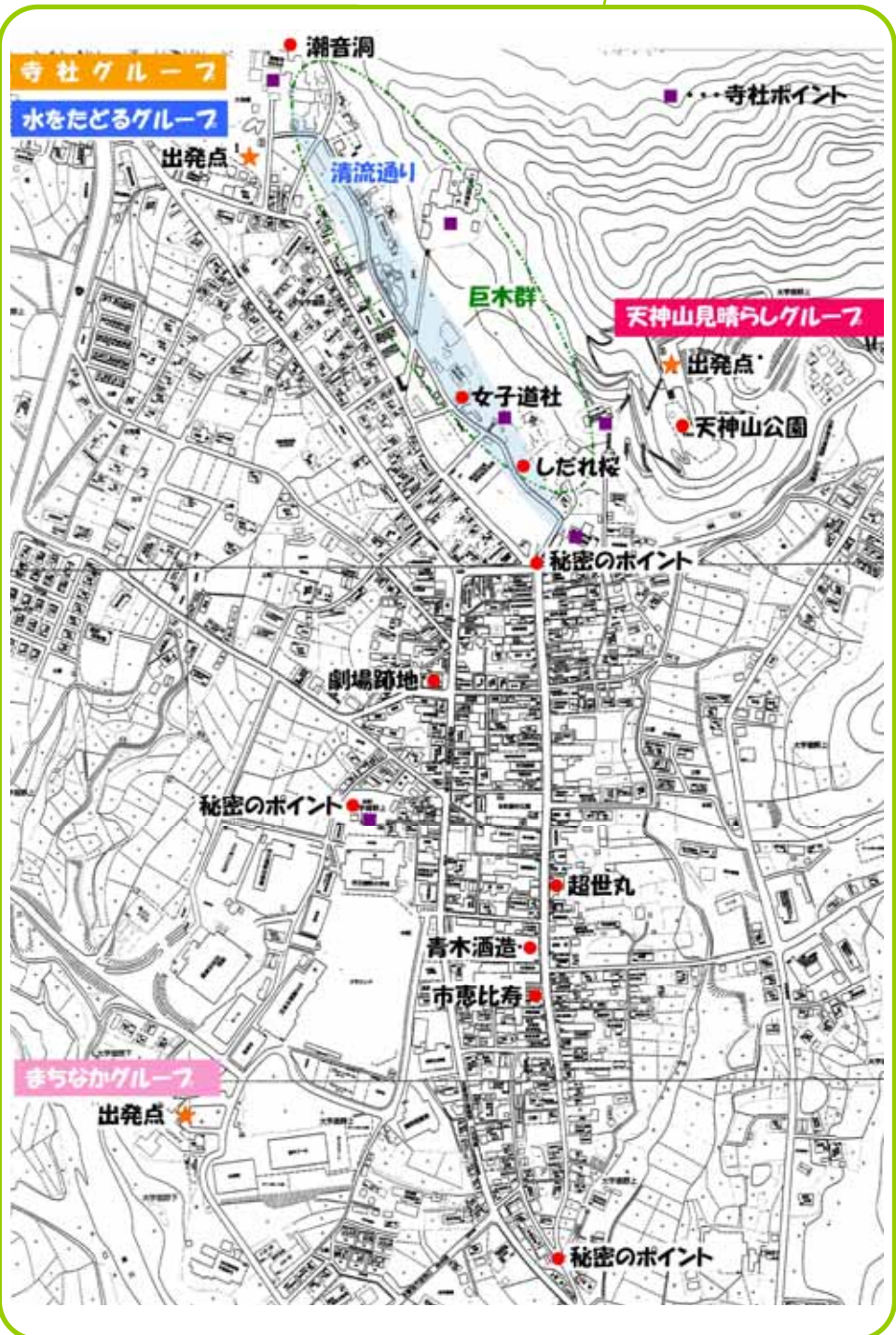
新川大橋南エリア

周南市鹿野編 10月23日(土)

周南市鹿野は、かつて山代往還を中心に旧都濃郡北部の市として盛況を博していました。いまも往時のにぎわいを伝える町家や寺社が残っています。

タウンウォッチングでは、10グループに分かれて、旧鹿野町の中心部を4つのコース(まちなかグループ・天神山グループ・寺社グループ・水をたどるグループ)で散策しました。

水路を流れる音や街中から見える山並みなど、なにげないけれども懐かしさと心地よさが感じられる風景がたくさんありました。



まちなかグループ

2班「まちなかの鹿野景色」



4班「水と歴史の山代往還～鹿野まちなかウォッチング～」



5班「清流山代水道」



10班「目で香る歴史の町並」

2班：敷地境界部分にも水路があり、昔は水を大切にしながら、生活していた様子がわかりました。

4班：山代街道では、昔の高級旅館の名残を思わせる、戸袋の細工（手彫り）に感動しました。

5班：山代街道を通っている水を利用して、町の人々が植木に水をやっている場面が良かったです。

10班：歴史的なものを手入れしていけば、鹿野の魅力につながると思います。

鹿野らしい景観は見つかりましたか？

1班：自然なもの和不自然なものが混在しているところが気になりました。水そのものは自然のものだが、周りには造られたものが多いと感じました。

8班：水を生活の中に取り込んでいる光景をまのあたりにし、町を歩いた価値がありました。



8班「営みの水今昔」



1班「水はどこへいった？」



水をたどるグループ

天神山グループ

6班「天神山から歩こう！」



9班「今・むかし 天神山から・・・」



6班：頂上からの景色が素晴らしく、瓦屋根の町並みが絶景だと思いました。割と広く見渡せる眺望でした。

9班：天神山からの景観には、やはり良いものがありました。将来的には山代街道を、水路があった頃のような元の形で復活させてほしいです。

3班：神社では、宮司が、森の樹木のことなどを解説してくれました。地域を大切にしている人々がいて、景観が育つのではないかと思います。

7班：一押しスポットは、二所山田神社にあった県下一の高さを誇るモミの木でした。

7班「神域発見～巨木が語る鹿野の歴史～」



3班「へう～として寺を味わふ」



寺社グループ

ワークショップを終えて・・・

長門市 仙崎編

コミュニケーション技研代表 中山淑子さんより

景観のあり方や「美しい」という基準は、住んでいる自分たちの手で作り出すものです。長門市は、海の文化・山の文化・川の文化が全て揃っており、山口県のお手本になると考えています。仙崎には、仙崎の「美しい」という基準があり、金子みすずの美意識が特に大きなポイントだと思いました。

このワークショップを通じて、仙崎にまた来たいと思われた方が多いのではないのでしょうか。地元の方はそうした反応に勇気づけられると思います。まちづくりは、人の関係性で成り立っています。今日築くことができた関係性が続いていくことを望みます。



宇部市 真締川編

山口大学工学部助教授 嶋心治さんより



どのグループも、ただ単に「良いもの、美しいものがある」ということよりも、まちづくりの観点から景観を捉えようとしていたところが非常に大きなポイントでした。

真締大橋が南北方向から景観を見るのに良い地点であったり、寿橋などのレトロな雰囲気が埋もれているなどの指摘がありました。昔の面影や歴史に裏づけされた景観資源がまちづくりの要素

として深化していくことも当然考えられます。景観資源をどうまちづくりにつなげていくのか、どう美しく整えていくのが今後の課題だと感じました。

周南市 鹿野編

山口大学工学部教授 内田文雄さんより

まちなかに山代街道の面影が残っていますので、できることなら行政も協力してなんとかできないものかと感じました。地域に折り重なってきた時間の要素を丁寧に伝えて、それを掘り起こしながら、ものを造っていかねばいけないと思います。残念な点は、人の活動がないことです。例えば、古い民家を改修して、「庭に何かを植え始める 庭で採れたものを売り始める

加工して商品にする」というような人々の活動の繋がりが景観を支えるのだと思います。皆さんが自信を持って、次のステップ・きっかけに動いてもらいたいと思います。



ワークショップにご参加いただいた皆様へ

今回のワークショップで確認できた点が3つあります。まずは、「景観のとらえ方は様々だ」ということです。地元の方と他の町から来た方で景観の評価の仕方が全く違うということを実感されたと思います。さらに時間や季節・天候などによって同じ場所でもいろいろな装いを見せるものです。

次に、景観は匂いや音など「五感全体で認識する」ということです。かまぼこの香り、水の音、木漏れ日の温かさ、目にみえないものが景観をさらに心地よく演出します。

最後は、景観を魅力的にする上で「人の営み」が

とても大切だということです。いくら綺麗に整えられた町並みでも人の暮らしが感じられなければ、かえって寒々しささえ覚えます。

今回のワークショップを通して、地元を愛し地元根付いた取り組みをしていらっしゃる多くの方と会うことができました。このワークショップは来年度も継続して開催する予定です。それぞれの地域の守り育てるべき景観を見極め、そのための仕組みを考えていきたいと思っています。

ワークショップ水先案内人

水沼 信(山口県産業技術センター)